様式-2K①(土木用)

工事成績採点の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目に1を入れる。

工事番号 1506 (共通・監督員用)

記二百日		1	1		1	(共理・監督貝用)
評価項目	細別	a 本四本ナフ	b DITITIES & Z	C C MA の東西におり、	のの子学団ベナス	e 子注回ベナフ
1. 施工体制	I. 施工体制一般	適切である。	ほぼ適切である。	他の事項に該当しない。	やや不適切である。	不適切である。
		該当評価		ヘ む トナマギマギン 田山 コー	評価 □ 施工体制一般	評価
1-162				:含む)を工事着手前に提出して	に関して、工事	に関して、工事
1-164		1	<mark>1</mark> いる。		監督員が文書に	監督員からの文
			□ 施工計画書と現場の施工体	は制が一致している	11 よる改善指示を	12 書による改善指
2		1			行った。	示に従わなかっ
			□ 作業分担と責任の範囲が施	五工体制台帳、施工体系図(全て		た。
3-166		1	<mark>1</mark> の工事を対象)もしくは施工	L計画書で確認できる。		
			□ 施工体制台帳、施工体系図](全ての工事を対象)が整備さ		
4-167		1	1 れ、施工体制図も現場に掲げ			
1 101		1]以上)が監督員の確認を受け		
5-168		1	1 た上で契約後10日以内に行			
9-100		1				
0.100				が工事全般にわたり良く把握される。)		
6-169		1		これ、有効に放配している。)		
			□ 社内検査員の身分(社員)	、経歴が確認でき適正である。		
7		1	1			
)他必要な標識を公衆の見やすい		
8		1	<mark>1</mark> 場所に掲示している。			
			□ 緊急指示、災害、事故等が	び発生した場合の体制が整ってい		
9		1	<mark>1</mark> る。			
			□ 「施工プロセスのチェック	」、「工事現場等における施工		
10		1	1 体制点検・確認要領」で指摘			
			□ その他(理由:)		
			_			
		1.0	─ ₀ 該当項目の内達成項目が90%	EU F		
		10				
			該当項目の内達成項目が80%	5~90%未満 b		
		並在本 100	── _{9%} 該当項目の内達成項目が80%	、未満 c		
		評価率 100				
		評定	a ※該当項目が2項目以下の場合	iはc評価とする。		
		点数	2			
			4			

[記入方法] 該当する項目に1を入れる。

工事成績採点の考査項目別運用表

工事番号

1506

評価項目	細別	8	a	b	c	d	е
1. 施工体制	Ⅱ. 配置技術者	適切である	5。	ほぼ適切である。	他の事項に該当しない。	やや不適切である。	不適切である。
	(現場代理人等)	該当	評価	「評価対象項目」		評価	評価
13		1	1	□ 現場代理人として常駐し、工事全	体の把握ができている。	□ 配置技術者に関し て、工事監督員が文 書による改善指示を	
14		1	1	□ 現場代理人として、工事監督員と 対応がよい。	の連絡調整を書面で行うなど		24 に従わなかった。
15		1	1	□ 書類を共通仕様書及び諸基準に基 る。	づき過不足なく作成してい		
16		1	1	□ 契約書、設計図書、適用すべき諸している。	基準等を理解し、施工に反映		
17-25		1	1	□ 設計図書と現場との相違があった るなどの必要な対応を行っている。			
18		0	0	□ 施工上の課題となる条件(作業環 を図っている。	増、気象、地質等)への対応		
19		1	1	● 下請けの施工体制、施工状況を把	握している。		
20		1	1	□ 主任技術者又は、監理技術者とし 努めた。	て技術的に優れ良好な施工に		
21		1	1	□ 作業に必要な労働安全衛生規則で 法で定める専門技術者を選任及び配			
22		1	1	□ 「施工プロセスチェック」、「工 検・確認要領」で指摘事項がなかっ			
				□ その他(理由:)	●下請けがある場合に該当	
		9	9	大火疫口の仕法と疫口が 0.00/ 以 1			
		==: / 		該当項目の内達成項目が90%以上… 該当項目の内達成項目が80%~90			
		評価率	100/0	4			
		評定		該当項目の内達成項目が80%未満…			
		点数	4	※該当項目が2項目以下の場合はc評	価とする。		

工事成績採点の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目に1を入れる。

評価項目	細別	а		b	c		d		(六 <u>远 <u></u> </u>
2. 施工状況	I. 施工管理	適切であ	うる。	ほぼ適切である。	他の事項に該当しない。	やや7	「適切である。		不適切である。
		該当	評価	「評価対象項目」		評価		評価	
25-17 25-161		1	1	□ 契約書17条第1項第1号から5号に基づ	く設計書の照査を行い施工がなされている。		□ 施工管理に関して、工事監督員が文書に		□ 施工管理に関して、 工事監督員からの文
26-163		1	1	□ 施工計画書と現場施工方法が一致している。		39	よる改善指示を行っ た。	40	書による改善指示に 従わなかった。
27-162		1	1	□ 施工計画書が、設計図書及び現場条件を反映	央したものとなっている。		0		,2, 0,,, 1, 1, 2, 0
28		1	1	□ 建設機械等の使用及び調達計画が十分なされ	れ管理されている。				
29-160		1	1	□ 工事材料の品質に影響がないよう保管してい	いる。				
30-169		1	1	□ 日常の出来形管理を設計図書及び施工計画報	書に基づき適時的確に行っている。				
31-169		1	1	□ 日常の品質管理を設計図書及び施工計画書	こ基づき適時的確に行っている。				
32		1	1	□ 現場内の整理整頓を日常的に行っている。					
33		1	1	□ 工事用資材等の見本、品質管理証明書等、	工事写真等が日常的に適切に整理されている。				
34-172		1	1	□ 段階及び立会確認が適時的確に行われている	3 .				
35-171		1	1	□ 工事記録の整備が適時的確になされている。					
36-165		1	1	□ 建設副産物の再利用等への取組を適切に行った。	っている。				
				□ 工事全般において、低騒音型、低振動型、 」いる。	非出ガス対策型の建設機械及び車両を使用して				
37 38		1	1		がなかった。				
30		1	1	□ その他(理由:)				
		14		4					
				該当項目の内達成項目が90%以上 a					
		評価率	, -	該当項目の内達成項目が80%~90%未満…	b				
		評定		該当項目の内達成項目が80%未満 c					
		点数	5	※該当項目が2項目以下の場合はc評価とする。					

工事番号

1506

[記入方法] 該当する項目に1を入れる。

評価項目	細別		a	b	С	d	e
2. 施工状況	Ⅱ. 工程管理	適切であ	る。	ほぼ適切である。	他の事項に該当しない。	やや不適切である。	不適切である。
		該当	評価	「評価対象項目」		評価	評価
41-85		1	1	□ 工事の進捗を早めるための取組を	ご行っている。	□ 工程管理に関して、 工事監督員が文書に	□ 工程管理に関して、 工事監督員からの文
42		1	1	□ 現場条件の変化への対応が迅速でい。	であり、施工の停滞が見られな	よる改善指示を行っ 50 た。	書による改善指示に 51 従わなかった。
43-81		1	1	▲ 時間制限や片側交互通行等の各種 大きな工程の遅れがない。	値制約への対応が適切であり、		
44-84		0	0	■ 休日の確保を行っている。			
45-85		1	1	□ 工程に与える要因を的確に把握し 作成している。	.、それらを反映した工程表を		
46		0		■ 適切な工程管理を行い、工程の過	柔れがない。		
47-84		0	0	■ 計画工程以外の時間外作業がほと	こんどない。		
48-85		1	. 1	□ 実施工程表の作成及びフォローア 程を管理している。	^ア ップを行っており、適切に工		
49		1	. 1	□ 「施工プロセスのチェック」で指	f摘事項がなかった。		
				□ その他(理由:)		
				- ■は標準工期工事が該当			
				▲時間制限がある工事が該当			
		6	6	本時間制限がめる工事が該当 該当項目の内達成項目が90%以上・・	а		
			· · ·	該当項目の内達成項目が80%~90			
		評価率	100%	該当項目の内達成項目が80%未満・・	с		
		評定	a	※該当項目が2項目以下の場合はc割	平価とする。		
		点数	4				

工事番号

1506

[記入方法] 該当する項目に1を入れる。

評価項目	細別		а	b	С		d		е
2. 施工状況	Ⅲ. 安全対策	適切であ	る。	ほぼ適切である。	他の事項に該当しない。	やや不	適切である。	不適切	叩である。
		該当	評価	「評価対象項目」		評価		評価	
52-91		1	. 1	● 災害防止協議会等を1回/月以上	行っている。		□ 安全対策に関して、 工事監督員が文書に よる改善指示を行っ		□ 安全対策に関して、 工事監督員からの文 書による改善指示に
53-89		1	. 1	□ 安全教育及び安全訓練等を半日/		61	た。	62	従わなかった。
54-90		1	. 1	□ 施工現場での安全巡視の記録、作 危険予知(KY)活動等を実施し、 また、新規入場者教育の内容に、	業前打合せ(Tool-Box-Meeting)、 記録が整備されている。 当該工事の現場特性を反映している。				
55-89		1	. 1	□ 工事期間を通じて、労働災害及び	公衆災害が発生しなかった。				
56		1	. 1	□ 交通安全管理に積極的に取り組ん	でいる。				
57		1	1	□ 仮設工の点検及び管理をチェック	リスト等を用いて実施している。				
58		1	1	□ 保安施設の設置及び管理を、各種 している。	基準及び関係者間の協議に基づき実施				
		1	. 1	□ 地下埋設物及び架空線等に関する	事故防止対策に取り組んでいる。				
59		1	. 1	_ □ 「施工プロセスのチェック」で指	摘事項がなかった。				
60		1	. 1	□ その他(理由:)				
				口での他(连由・)				
				●下請けがある場合に該当					
		0	0	 該当項目の内達成項目が90%以上…	····· a				
		9	9	該当項目の内達成項目が80%~90					
		評価率	100%	該当項目の内達成項目が80%未満…					
		評定	a	※該当項目が2項目以下の場合はc評	価とする。				
		点数	5						

工事成績採点の考査項目別運用表

1506

[記入方法] 該当する項目に1を入れる。

(共涌・監督員用)

	P: / - / 11	11 = 2 = 2 / 11,	- 920				(光旭 温目貝用/
評価項目	細別		a	b	С	d	e
2. 施工状況	IV. 対外関係	適切であっ	った。	ほぼ適切であった。	他の事項に該当しない。	やや不適切であった。	不適切であった。
		該当	評価	「評価対象項目」		評価	評価
63-67 63-82 63-83		0	0	□ 関係官公庁などと調整を行 た。	い、トラブルの発生がなかっ	□ 対外関係に関して、 工事監督員が文書に よる改善指示を行っ た。	□ 対外関係に関して、 工事監督員からの文 書による改善指示に 従わなかった。
64-83		1	1	□ 地元との調整を行い、トラ	ブルの発生がなかった。	69	70
65		1	1	者等に分かりやすく周知して			
66		1	1	□ 第三者からの苦情がない。 対応を行っていた。	もしくは、苦情に対して適切な		
67-63 67-82 67-83		1	1	□ 関連工事との調整を行い、	円滑な進捗に取り組んでいた。		
68		1	1	□ 「施工プロセスのチェック	」、で指摘事項がなかった。		
				□ その他(理由:)		
		5	U	該当項目の内達成項目が90%			
				該当項目の内達成項目が80%			
		評価率	100/0	該当項目の内達成項目が80%			
		評定	a	※該当項目が2項目以下の場合	はc評価とする。		
		点数	3				

工事番号 1506

[記入方法] 該当する項目に1を入れる。

(土木・監督員用)

評価項目	細別		a		b		С		d		e
3. 出来形及 び出来ばえ	I. 出来形	1	□ 出来形の測定が、必要な測定項目について 所定の測定基準に基づ き行われており、測定 値が規格値を満足し、 そのばらつきが規格値 の50%以内である。		□ 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の80%以内である。		□ 出来形の測定が、必要な測定項目について 所定の測定基準に基づ き行われており、測定 値が規格値を満足し、 a、bに該当しない。		□ 出来形の測定方法又 は測定値が不適切で あったため、工事監督 員が文書で改善指示を 行った。		□ 契約書第16条に基 づき、工事監督員が改 造の請求又は破壊検査 を行った。
		71	② 出来形とは、設計図	書に示 Ľ事施	を通じて評定するものとす された工事目的物の形状及 工管理基準」の測定項目、 体系である。	びけ		74		75	

工事成績採点の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目に1を入れる。

(十木・監督員用)

											(<u>—</u>) — — — — — — — — — — — — — — — — — —
評価項目	細別		а		b		С		d		е
3. 出来形及び出来ばえ	Ⅱ.品質	1	コ 品質の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、そのばらつきが規格値の50%以内である。		□ 品質の測定が、必要 な測定項目について所 定の測定基準に基づき 行われており、測定値 が規格値を満足し、そ のばらつきが規格値の 80%以内である。		□ 品質の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、a、bに該当しない。		□ 品質関係の測定方法 又は測定値が不適切で あったため、工事監督 員が文書で改善指示を 行った。		□ 契約書第16条に基 づき、工事監督員が改 造の請求又は破壊検 査を行った。
		76 ① ②			通じて評定するものとする れた工事目的物の規格であ		3	79		80	
		3	副 品質管理とは、「工事での段階における品質です。		管理基準」の試験項目、記 ための管理体系である。	験基	準及び規格値に基づく全				
		言	平定	a							
		言	平定点数	7							

工事番号

1506

「記入方法」 該当する項目に1を入れる。

(土木・監督員用) 評価項目 丁種 b d С 3. 出来形及 び出来ばえ 該当 評価 「評価対象項目」 評価 Ⅱ. 施工特性 施設機械 □ 材料の品質が証明書類で確認できる。 □ 品質関係の測定方法 □ 品質関係の測 設備工事 又は測定値が不適切で 定方法又は測定 - 1 □ 設備の機能及び性能が、承諾図書のとおり確保され、品質の確認ができる。 (用排水 あったため、工事監督 値が不適切で 1 □ 設計図書の仕様を踏まえた詳細設計を行い、承諾図書として提出していることが確認できる。 ポンプ・ 員が文書で改善指示を あったため、検 水門設 □ 機器の機能及び性能に係わる成績書が整理され、品質の確認ができる。 行い改善された。 香員が修補指示 1 備·除塵 を行った。 1 □ 途装の品質管理について、設計図書に示すとおり施工していることが確認できる。 設備・鋼 □ 据付基準線及び基準高は設計図書のとおり施工していることが確認できる。 製付属 1 □ 配電盤類の関係諸基準に基づき各種試験を行っていることが確認できる。 유) □ 操作制御設備について操作スイッチや表示灯が承諾図書のとおり配置され、正常に動作したことが確認でき る。 □ 操作制御設備の安全装置及び保護装置の機能・性能は、試験成績書類が提出され品質確認ができる。 □ 電線類の接続部が適切に処理されていることが確認できる。 1 1 □ 小配管、電気配線、配管が承諾図書の通り敷設されていることが確認できる。 1 □ 設備の取扱説明書は、分かりやすく工夫されていることが確認できる。 1 □ 取扱説明書には、部品等の点検及び交換方法、消耗品リスト等が整備されている。 1 □ 設備構造や機器の配置は、保守・点検作業を容易にできるよう工夫していることが確認できる。 1 □ 基礎ボルトは承諾図書のとおり配置され、適切に締付を行っていることが確認できる。 □ シーケンス(操作手順)に従い正常に動作したことが確認できる。 □ ビット内の電線類は行き先札が取り付けられ整然と配置されている。 □ 地中電線路等は適切な深さ及び間隔で配置されていることが確認できる。 1 □ □ 設置工事は適切な深さと関係諸基準に基づき配置されていることが確認できる。 1 1 □ 溶接の品質管理について、設計図書に示すとおり施工していることが確認できる。 1 □ 二次コンクリートの配合試験等を実施し、試験成績表にまとめていることが確認できる。 1 1 □ バルブ類の平時の状態を示すラベルなどを見やすい状態で表示されていることが確認できる。 1 1 □ 計器類には、運転時の適用範囲が見やすく表示されていることが確認できる。 1 □ 回転部や高温部等の危険箇所には、表示又は防護をしていることが確認できる。 □ その他(理由: 24 24 該当項目の全てを達成………… a 該当項目の内達成項目が50%~100%未満…b 該当項目の内達成項目が50%未満……c 評価率 100% a ※評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。 評定

工事番号 1506

評価項目 細別 工種 a b c d e 3. 出来形及び出来ばえ 該当 評価 「評価対象項目」 評価 評価 日 品質関係の測定方法又 評価 日 品質関係の測定方法又 口 品質関係の測定方法又	木・監督員用)	
出来形及び 出来 出来 出来 出来 出来 出来 出来 出		
野価		
II. 施工特性 地造成工		
地流成工	の測定方法	
開地境界、使用条件等の確認が適切に行っていることが確認できる。	直が不適切で	

1	11 2100	
1		
1		
1		
1		
1		
1 1 □ 表土厚の事前調査が適切に実施していることが確認できる。 1 1 □ 樹根、レキ等の支障物が除去されていることが確認できる。 1 1 □ 表土はぎ取りは、雑物等が混入しないように注意して施工していることが確認できる。 1 1 □ 降雨後など、ほ場の泥濘化を助長するような機械作業を行っていないことが確認できる。 1 1 □ 表土の基盤への混入や逸散がなく、集積した表土の流亡対策を行っていることが確認できる。 1 1 □ 基盤の盛り立てが適切に行っていることが確認できる。 1 1 □ 降雨等による影響を避けるためシートかけ等の排水対策を実施していることが確認できる。 1 1 □ 砕土は、適度な耕土の水分状態のときに行い、土壌改良資材との効果的な混合が図られている。		
1 1 □ 樹根、レキ等の支障物が除去されていることが確認できる。 1 1 □ 表土はぎ取りは、雑物等が混入しないように注意して施工していることが確認できる。 1 1 □ 降雨後など、ほ場の泥濘化を助長するような機械作業を行っていないことが確認できる。 1 1 □ 表土の基盤への混入や逸散がなく、集積した表土の流亡対策を行っていることが確認できる。 1 1 □ 基盤の盛り立てが適切に行っていることが確認できる。 1 1 □ 降雨等による影響を避けるためシートかけ等の排水対策を実施していることが確認できる。 1 1 □ 砕土は、適度な耕土の水分状態のときに行い、土壌改良資材との効果的な混合が図られている。		
1 1 □ 表土はぎ取りは、雑物等が混入しないように注意して施工していることが確認できる。 1 1 □ 降雨後など、ほ場の泥濘化を助長するような機械作業を行っていないことが確認できる。 1 1 □ 施工後のほ場において、既存植生の残渣や雑草が埋没し表面に露出していないことが確認できる。 (反転耕起の場合) 1 1 □ 表土の基盤への混入や逸散がなく、集積した表土の流亡対策を行っていることが確認できる。 1 1 □ 基盤の盛り立てが適切に行っていることが確認できる。 1 1 □ 降雨等による影響を避けるためシートかけ等の排水対策を実施していることが確認できる。 1 1 □ 砕土は、適度な耕土の水分状態のときに行い、土壌改良資材との効果的な混合が図られている。		
1 1 □ 降雨後など、ほ場の泥濘化を助長するような機械作業を行っていないことが確認できる。 1 1 □ 施工後のほ場において、既存植生の残渣や雑草が埋没し表面に露出していないことが確認できる。 (反転耕起の場合) 1 1 □ 表土の基盤への混入や逸散がなく、集積した表土の流亡対策を行っていることが確認できる。 1 1 □ 基盤の盛り立てが適切に行っていることが確認できる。 1 1 □ 降雨等による影響を避けるためシートかけ等の排水対策を実施していることが確認できる。 1 1 □ 砕土は、適度な耕土の水分状態のときに行い、土壌改良資材との効果的な混合が図られている。		
1 1 □ 施工後のほ場において、既存植生の残渣や雑草が埋没し表面に露出していないことが確認できる。(反転耕起の場合) 1 1 □ 表土の基盤への混入や逸散がなく、集積した表土の流亡対策を行っていることが確認できる。 1 1 □ 基盤の盛り立てが適切に行っていることが確認できる。 1 1 □ 降雨等による影響を避けるためシートかけ等の排水対策を実施していることが確認できる。 1 1 □ 砕土は、適度な耕土の水分状態のときに行い、土壌改良資材との効果的な混合が図られている。		
1 1 □ 表土の基盤への混入や逸散がなく、集積した表土の流亡対策を行っていることが確認できる。 1 1 □ 基盤の盛り立てが適切に行っていることが確認できる。 1 1 □ 降雨等による影響を避けるためシートかけ等の排水対策を実施していることが確認できる。 1 1 □ 砕土は、適度な耕土の水分状態のときに行い、土壌改良資材との効果的な混合が図られている。		
1 1 □ 基盤の盛り立てが適切に行っていることが確認できる。 1 1 □ 降雨等による影響を避けるためシートかけ等の排水対策を実施していることが確認できる。 1 1 □ 砕土は、適度な耕土の水分状態のときに行い、土壌改良資材との効果的な混合が図られている。		
1 1 □ 降雨等による影響を避けるためシートかけ等の排水対策を実施していることが確認できる。 1 □ 砕土は、適度な耕土の水分状態のときに行い、土壌改良資材との効果的な混合が図られている。		
1 1 □ 種子や土壌改良資材は、設計図書の仕様に基づき適切に保管されていることが確認できる。		
1 1 □ は場毎に資材の使用量がわかりやすく整理されていることが確認できる。		
1 1 土壌改良資材は、所定量を均等に散布するよう留意して行っていることが確認できる。		
□ 肥料を2種類以上同時散布する場合、極力均等に散布できるよう層状、交互に積み込みを行いながら施工している ことが確認できる。		
1 1 口 土壌改良材の散布は強風を避け行っていることが確認できる。		
1 1 □ 播種は、強風・降雨・干天を避け行っていることが確認できる。		
1 1 ㎞肥播種は、設計図書の仕様に基づき適切な時期に行っていることが確認できる。		
1 1 鎮圧は、機械器具に耕土が付着する状態を避け行っていることが確認できる。		
1 1 単立 鎮圧は、播種後速やかに行っていることが確認できる。		
1 1 立土破砕は施工前にほ場毎に、けん引方向の計画をたて、工事監督員の承諾を受けてから施工していることが確認できる。		
1 1 □ 小土破砕のけん引方向及び深さや間隔が、適切に施工していることが確認できる。 1 □ 小土破砕は良好な時期を選んで作業していることが確認できる。		
□ その他(理由:)		
【隔障物関係】		
1 1 「隔障物の本柱にキズ、塗装に損傷がないことが確認できる。		
1 1 □ 隔障物の本柱の打ち込みは、緩衝材を用いていることが確認できる。		
□ その他(理由:)		
32 32		
評価率 100%		
<u>評価学 100%</u> 評定 a ※評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。		

工事番号 1506

[記入方法] 該当する項目に1を入れる。

[記入方法]	該当す	る項目に	1 を入れ	1る。				(土木・監督員用)
評価項目 細別	工種			а	b	С	d	е
3. 出来形及 び出来ばえ						•		
		該当	評価	「評価対象項目」			評価	評価
Ⅱ. 施工特性	客土工事	1	1	□ 客入土に埋木、石塊、草	並木片及び雪塊が混入していないことが確認できる。		□ 品質関係の測定方法 又は測定値が不適切で	□ 品質関係の測 定方法又は測定
		1	1	□ 客入量の確認を行った後	後、散布されていることが確認できる。		あったため、工事監督 員が文書で改善指示を	値が不適切で あったため、検
		1	1	□ あらかじめ工事監督員と	: 土質の確認(抜坪試験・試験成績表など)を行っているこ	とが確認できる。	行い改善された。	査員が修補指示
		1	1	□ 運搬に使用するダンプト 確認できる。	- ラック一台当たりの積載量を確認するなど搬入量を的確に	管理していることが		を行った。
		1	1	□ 客入土の大きな土塊は砕	といて散布されていることが確認できる。			
		1	1	□ ほ場内小運搬は、均等に	こ客入土を分散できるように計画図を作成し行っていること	が確認できる。		
		1	1	□ 放下整理を適切に行って	こいることが確認できる。			
		1	1	□ 土取場の土砂流亡対策	(簡易な整地、水切り等の保守) を行っていることが確認で	きる。		
		1	1	□ 運搬路線の防じん対策に	ご散水を行っていることが確認できる。			
		1	1	□ 作業員(清掃人夫等) <i>Œ</i>)配置について、設計図書のとおり配置させていることが確			
		1	1	□ 工事開始前に地元関係機	&関に工事の概要を通知していることが確認できる。			
		1	1	□ 土取場並びに中継所周辺	2や踏切等の落土清掃をおこなっていることが確認できる。			
		1	1	□ 攪拌工の施工に当たり、ことが確認できる。	気象条件等の確認を行い、客土と表土がなじみよく混ざる	ように施工している		
				□ その他(理由:)			
		13	13					
				該当項目の全てを達成	а			
				該当項目の内達成項目が50)%~100%未満…b			
				該当項目の内達成項目が50) %未満 c			
		評価率	100%					
		評定	а	※評価対象項目が2項目以下	Fの場合は c 評価とする。			
		点数	7					

工事成績採点の考査項目別運用表

1506

[記入方法] 該当する項目に1を入れる。

(土木・監督員用)

評価項目 工種 a 細別 工種 c	d	e
3. 出来形及 び出来ばえ	·	
該当 評価 「評価対象項目」	評価	評価
II. 施工特性 暗渠排水 1 1 1 □ 材料の品質が証明書類で確認できる。	□ 品質関係の測定方法 又は測定値が不適切で	□ 品質関係の測 定方法又は測定
1 1 □ 管内に土砂・泥水が入らないように施工していることが確認できる。	あったため、工事監督	値が不適切で
1 加工に先立ち、各ほ場の吸水渠や集水渠の掘削深・勾配の計画したものを監督員の承諾を受け、計画とおり行っていることが確認できる。	員が文書で改善指示を 行い改善された。	あったため、検 査員が修補指示 を行った。
1 1 □ 渠底部に凹凸や蛇行がなく、流下勾配が確保されていることが確認できる。		Z 11 2/C°
1 □ 吸水渠、集水渠の掘削で設計図書の仕様に示す最低埋設深が確認できる。		
1 1 □ 湛水、湧水がある場合、適当な水切り等を設けていることが確認できる。		
1 1 □ 管の接続及び異形管部への接続が適切に行っていることが確認できる。		
1 1 □ 疎水材は管敷設後すみやかに投入され、管のずれや土砂の混入がないことが確認できる。		
1 1 □ 水閘・落口工の埋め戻しは、適切に施工していることが確認できる。		
1 □ 管路の埋め戻しは作土と心土に分け、水分の少ない時点で施工し、乾いた土で行っていることが確認できる。		
1 1 □ 埋め戻し土は、作土層と心土層に分け、それぞれの土層に埋め戻している事が確認できる。		
1 1□ 水甲部と暗渠本体は確実に接合していることが確認できる。		
1 1 □ 管理孔と暗渠本体は確実に接続していることが確認できる。		
1 1 □ 埋木、石レキ等支障物がある場合は除去して施工していることが確認できる。		
□ その他(理由:)		
14 14		
該当項目の全てを達成 a		
該当項目の内達成項目が50%~100%未満… b		
該当項目の内達成項目が50%未満c		
評価率 100%		
評定 a ※評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。		
点数 7		

工事番号

1506

「記入方法」 該当する項目に1を入れる。

(土木・監督員用) 評価項目 丁.種 h d С 細 別 3. 出来形及び 出来ばえ 評価 評価 該当 評価 「評価対象項目」 Ⅱ. 施工特性 区画整理 □ 品質関係の測定方法 □ 品質関係の測 □ 材料の品質が証明書類で確認できる。 丁事 又は測定値が不適切で 定方法又は測定 □ 施工に先立ち地区外の排水を遮断し、地区内の地表及び地下水を排除していることが確認できる。 1 あったため、工事監督 値が不適切で 員が文書で改善指示を あったため、検 □ 施工に先立ち表十の堆積場所を計画し、適切に実施していることが確認できる。 1 香員が修補指示 行い改善された。 □ 表十厚の事前調査が適切に実施していることが確認できる。 を行った。 1 1 1 1 □ 表土はぎ取りは、雑物等が混入しないように注意して施工していることが確認できる。 1 1 □ 降雨後など、ほ場の泥濘化を助長するような機械作業を行っていないことが確認できる。 □ 表土に基盤土の混入や逸散がなく、集積した表土の流亡対策を行っていることが確認できる。 1 □ 畦畔は漏水を誘発するような石レキ、雑物等が混入してないことが確認できる。 1 □ 基盤の盛り立てが適切に行っていることが確認できる。 1 □ 反転均平において、土壌を十分に乾燥させて施工しているのが確認できる。 □ 植生工は設計図書とおり行っていることが確認できる。 1 1 □ 客十工は設計図書とおり行っていることが確認できる。 1 □ 暗渠排水工は設計図書とおり行っていることが確認できる。 1 1 □ 用・排水路は設計図書とおり行っていることが確認できる。 □ コンクリート二次製品の吊り込み、据付は十分な注意を払っていることが確認できる。 1 □ その他 (理由: 15 15 該当項目の全てを達成………… a 該当項目の内達成項目が50%~100%未満…b 該当項目の内達成項目が50%未満……c 評価率 100% 。※評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。 評定

工事番号

1506

「記入方法」 該当する項目に1を入れる。

(土木・監督員用) 評価項目 工.種 h d С 細別 3. 出来形及 び出来ばえ 評価 「評価対象項目」 該当 評価 評価 Ⅱ. 施工特性 電気通信 □ 品質関係の測 □ 品質関係の測定方法 □ 製作着手前に、品質や性能の確保に係る技術検討が実施していることが確認できる。 設備工事 定方法又は測定 又は測定値が不適切で □ 材料・部品の品質照合の結果が品質保証書等(現物照合を含む)で確認でき、設計図書の仕様を満足している あったため、工事監督 値が不適切で ことが確認できる。 員が文書で改善指示を あったため、検 行い改善された。 香員が修補指示 □ 機器の品質、機能及び性能が設計図書を満足して、成績書にまとめられていることが確認できる。 1 1 を行った。 1 □ 操作スイッチや表示灯が承諾図書のとおり配置され、操作性に優れていることが確認できる。 □ 地中電線路等は適切な深さ及び間隔で配置されている。 1 1 □ 設置工事は適切な深さと関係諸基準に基づき配置されている。 1 □ ケーブル及び配管の接続などの作業が、施工計画書に記載された手順に沿って行われ、不具合がないことが 確認できる。 1 □ 設備の機能及び性能が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 1 □ 操作制御関係の機能及び性能が、設計図書の仕様を満足しているとともに、必要な安全装置及び保護装置の作 動が確認できる。 □ 設備の総合性能が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 1 1 □ 現場条件によって機器(製品)の機能及び性能が確認できない場合において、工場試験などで確認していること が確認できる。 □ 設備全体についての取扱説明書を工夫し作成(修繕(改造・更新含む)の場合は、修正又は更新)しているこ とが確認できる。 □ 完成図書で定期的な点検や交換を要する部品及び箇所を明示していることが確認できる。 □ 設備の構造において、点検や消耗品の取替え作業が容易にできるよう工夫していることが確認できる。 1 □ その他(理由: 14 14 該当項目の全てを達成…………a 該当項目の内達成項目が50%~100%未満…b 該当項目の内達成項目が50%未満……c 評価率 100% ※評価対象項目が2項目以下の場合はc評価とする。 評定 点数

工事成績採点の考査項目別運用表

[記入方法] 該当する項目に1を入れる。

1506 (十木· 贮 樫 昌 田)

		, , ,,,,,,,	- 4/			1			【土木・監督貝用)
評価項目 細 別	工種	а		a'	b	b '	c	d	е
3. 出来形 及び出来									
ばえ		該当	評価	「評価対象項目」				評価	評価
Ⅱ.施工特 性	(コンク	1	1	□ 製品の構造が設計条件を	満たしていることが確認でき	る。		□ 品質関係の測定方法 又は測定値が不適切で	□ 品質関係の測 定方法又は測定
	リート等 の2次製	1	1	□ 材料の品質が証明書類で	確認できる。			あったため、工事監督 員が文書で改善指示を	値が不適切で あったため、検
	品、柵 渠)	1	1	□ 製品に損傷及び補修痕が	ないことが確認できる。			行い改善された。	査員が修補指示 を行った。
	朱)	1	1	□ 転倒や崩壊等がないよう	製品の仮置を行っていること	が確認できる。			を11つた。
		1	1	□ 設計図書で示された通り	施工していることが確認でき	る。			
		1	1	□ 均しコンクリートは、基 ことが確認できる。	礎材転圧完了後、ブロックの	据付に支障のないように平坦に	こ仕上げられている		
		1	1	□ モルタル目地の施工は、	据付け後、よく清掃してから	行っていることが確認できる。			
		1	1	□ モルタル以外の目地材及	び伸縮目地の設置は、設計図	書に基づき施工していることが	が確認できる。		
		1	1	□ 掘削を行うにあたり、床付	廿面以下を乱さないように施 エ	こしていることが確認できる。			
		1	1	□ 基礎砂利等の転圧は適切	に行われていることが確認で	きる。			
		1	1	□ その他(理由:)			
		11	. 11						
				該当項目の全てを達成	а				
				該当項目の内達成項目が50	%~100%未満…b				
				該当項目の内達成項目が50	%未満 c				
		評価率	100%						
		評定	a	※該当項目が2項目以下の場	合はc評価とする。				
		点数	7						

工事番号

「記入方法」 該当する項目に 1 を入れる

1506

	:] 該当	する項目	頁目に 1 を入れる。 (土木・監督員用)								
五項目 別	工種	a	ı	a'	b	b'	С	d	е		
来形 出来			T 1	T				I I	I		
-		該当	評価					評価	評価		
五工特	法面工事			【共通】				□ 品質関係の測定方法	□ 品質関係の		
		1	1		いることが確認できる。(特に法	又は測定値が不適切で あったため、工事監督 員が文書で改善指示を 行い改善された。	定方法又は測値が不適切であったため、 査員が修補指を行った。				
		1	1		ぞ吹き付け材の付着に害となる施						
				確認できる。	の中はいわっとも、よう使用はよ						
		1	1		jの崩壊が起こらないよう締固めを						
		1	1	□ 附水による朋場が起こりな □ その他(理由:	いように、法面にシートをかける	寺の俳小刈束を夫虺していること	どが唯秘できる。				
				□ ての他(理由: 【種子吹付工、客土吹付工、植	(4.甘叶 4. 丁 16.【)					
		- 1	1	【種子吹竹工、各工吹竹工、値□ 土壌試験の結果を施工に反							
		1			.吹していることが確認できる。 i生じていないことが確認できる。						
		1	1	□ ホットなどの境外に隙间が□ ネットなどが破損を生じて							
		1									
			1		「、配合等が設計図書の仕様を満足	リーブいることが確認できる					
		1	1		:を満足していることが確認できる						
		1	1	□	- を側だしていることが推覧できる)°					
				【コンクリート又はモルタル吹	分子思係】	,					
		1	1	•	「工房店」 「及び配合が、設計図書の仕様を満	E見していることが確認できる					
		1	1 1		以上確保されていることが確認で						
		1		□ 金網が破損を生じていない		(本) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1					
		1	1								
		1									
		1] 吹付け厚さに応じて2層以上に分割して施工していることが確認できる。						
		1	_	□ 圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、⇒は互場の供試体であることが確認できる。							
		1			不良簡所が生じないよう跳ね返り材料の処理を行っていることが確認できる。						
		1		法肩の吹付けにあたり、地山に沿って巻き込んで施工していることが確認できる。							
		1	1	□ との他(理由:	四に旧って記さたがて過去して						
		1 1 1 1		【現場打法枠工関係(プレキャ	スト法枠丁含む) 】	,					
			1		「及び配合が、設計図書の仕様を満	「足していることが確認できる。					
				の長さで施工していることが確認							
		1	1		様を満足するように実施されてい						
		1	1 1 □ 圧縮強度試験に使用したコンクリート供記 1 1 □ 枠内に空隙がないことが確認できる。	□ 圧縮強度試験に使用したコ	ンクリート供試体が当該現場の供	は試体であることが確認できる。					
		1									
		1	1								
		1	1	<mark>=</mark>	ね返り材料の処理を行っているこ	とが確認できる。					
				□ その他 (理由:)					
		26	6 26			,					
				該当項目の全てを達成	a						
				該当項目の内達成項目が50%	~ 1 0 0 %未満… b						
				該当項目の内達成項目が50%	未満 c						
				1							
		評価率	100%	1							
		評定	,-	※該当項目が2項目以下の場合	なc評価とする。						
		点数	7	1							

工事番号 1506

「記入方法」 該当する項目に1を入れる。

[記入方法] 該当する項目に1を入れる。									(土木・監督員用)
評価項目 細別	工種	a		a'	b	b'	С	d	e
3. 出来形						l			
及び出来 ばえ		該当	評価	「評価対象項目」				評価	評価
Ⅱ.施工特性	管水路工 事	1	1	□ 材料の品質が証明書類で	確認できる。			□ 品質関係の測定方法 又は測定値が不適切で	□ 品質関係の測 定方法又は測定
114		1	1	□ 管及び付属品は、設計図	書の仕様に基づき適切に運搬・	あったため、工事監督 員が文書で改善指示を 行い改善された。	値が不適切で あったため、検 査員が修補指示 を行った。		
		1	1	□ 設計図書に示された掘削					
		1	1	□ 管の敷設に先立ち管割図番号をマーキングして敷設	,,				
		1	1	□ 管の布設にあたり、標高、	中心線、配管延長が設計図書				
		1	1	□ 管体の接合は、設計図書に基づき施工していることが確認できる。					
		1	1	□ 管の下部、側部の締め固と	めが設計図書に定められた条件	‡で施工していることが確認でき	きる。		
		1	1	□ 配管作業で管内部への土砂	沙等の流入防止に対する措置を				
		1	1	□ 管の吊り込み、据付は十分					
		1	1	□ コンクリートの配合試験 単位水量、アルカリ骨材反応		トの品質(強度・W/C、最大骨材	粒径、塩化物総量、		
		1	1	□ コンクリートの受け入れ	寺に必要な試験を実施しており)、温度、スランプ、空気量等の)測定結果が確認できる。		
		1	1	□ 圧縮強度試験に使用した	コンクリート供試体が、当該理	見場の供試体であることが確認で	ごきる。		
		1	1	□ 施工条件や気象条件に適 いることが確認できる。(9	した運搬時間、打設時の投入高 寒中及び暑中コンクリート等を				
		1	1	□ コンクリート養生が、設	計図書の仕様を満足しているこ	ことが確認できる。			
		1	1	□ コンクリートの圧縮強度 確認できる。	を管理し、必要な強度に達した	た後に型枠及び支保工の取り外し	ンを行っていることが		
		1	1	□ 鉄筋の組立及び加工が、記	投計図書の仕様を満足している	ることが確認できる。			
		1	1	□ スペーサーの品質及び個数	数が、設計図書の仕様を満足し	していることが確認できる。			
		1	1	□ 通水試験(継ぎ目、水張	の、水圧)が、設計図書に基っ	づき行っていることが確認できる	5.		
				□ その他(理由:)			
		18	18		. ـد ـ				
				「品質関係の試験結果のばら					
			1	該当項目の全てを達成	-				
				該当項目の内達成項目が509	7				
				該当項目の内達成項目が509	%未満 c				
		評価率	100%	0%					
		評定	а						
1	l	点数	7						i